

(2026年9月 30 日発表)

10月10日～ せりびわけいすけ 芹沢銈介美術館開館45周年記念展「街角に息づく芹沢デザイン」の開催

静岡市立芹沢銈介美術館では開館45周年を記念し、10月10日(土)から、芹沢銈介のデザイナーとしての活動に焦点を当てた企画展「街角に息づく芹沢デザイン」を開催します。

本展では、アサヒグループジャパン株式会社から寄贈を受けた芹沢銈介の作品「ニユートーキョー神戸さんちかタウン店壁面影絵」を初公開します。

【趣旨・背景】

- ・芹沢銈介美術館は、1981年6月15日に開館し、2026年に開館45周年を迎えました。
- ・芹沢銈介は若い頃からデザイナーとして活動し、30代で型染を手掛けたことで、デザインの幅を広げ、独自の表現を磨いていきました。その活動は、ブックデザイン、飲食店の看板やメニュー、茶や酒のラベル、緞帳、ステンドグラスなど多岐にわたり、最晩年まで続けました。
- ・本展では、現在も全国にその足跡をとどめ、愛され続ける芹沢デザインの世界を、約300点の資料を通して紹介します。

【ニユートーキョー神戸さんちかタウン店壁面影絵】

- ・2025年にアサヒグループジャパン株式会社から、芹沢銈介の作品「ニユートーキョー神戸さんちかタウン店壁面影絵」(株式会社ニユートーキョー旧蔵品)の寄贈を受けました。
- ・この作品は、1965年に神戸市三宮の地下街「さんちかタウン」にビヤホール「ニユートーキョー」が開店する際、芹沢銈介が同店からの依頼を受けて制作したものです。店舗での使用後、アサヒグループジャパン株式会社へ引き継がれ、一般への公開は、約45年ぶりとなります。
- ・本作は、「古代」「中世」「現代」の各時代でビールを楽しむ人々を表現したもので、各テーマ3枚のガラスを1組として3組制作されました。芹沢銈介ならではの力強く温かみのある意匠が特徴で、デザイナーとしての仕事を示す貴重な作品であるとともに、現時点で確認されている唯一の影絵作品です。本展では、この3組を初めて同時に公開します。
- ・あわせて、本展周知のため、10月2日(金)から11月10日(火)まで、「ニユートーキョー神戸さんちかタウン店壁面影絵」の「古代」「中世」「現代」を掲載した大型看板をJR静岡駅北口地下広場「しずチカ」に掲出します。

【企画展概要】

期間:2026年10月10日(土曜日)～12月13日(日曜日) 開館時間:9時～16時30分

休館日:毎週月曜日 ただし、10/12(月)、11/23(月)は開館し、10/13(火)、11/4(水)、11/24(火)は休館します。

会場:静岡市立芹沢銈介美術館(駿河区登呂五丁目10-5)

観覧料:一般420円/大・高生260円/小・中学生100円

※静岡市内在住の70歳以上の方・小中学生(通学含む)・未就学児は無料

※障がい者手帳等の提示により本人及び同伴者1名無料

【公式ホームページなど】

【HP】<https://www.seribi.jp> 【X】@seribi_shizuoka

【問い合わせ先】

観光文化・市民局 文化政策課 静岡市立芹沢銈介美術館 担当者:津野、田中 電話:054-282-5522